

全国協議会 ニュース

2017年7月1日発行 第301号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

全国の皆さんとともに新たな時代を拓く 新理事長に田中重勝氏が就任

5月28日(日)東京都港区の日本赤十字社会議室で「2017年度通常総会」が開催され、2016年度事業報告・決算報告・監査報告及び2017年度事業計画案・予算案は、原案通り全会一致で承認され、2017年度～2018年度の新役員も選任されました。二期4年間務めた野村正満理事長の退任に伴い、7月1日付けで田中重勝氏が新理事長に就任しました。新体制で新たな時代を拓きます。



2017年度活動の3本柱

●法律施行から3年経過——法律の見直し

骨髓バンク、さい帯血バンクの事業のシステム改善、関係機関の役割分担や法律の見直しが必要です。具体的な項目としては、①各バンク事業が安定的に運営できるよう公的財政支援の拡充、②ドナー募集活動の主体は、日本赤十字社と地方自治体とする規定化、③骨髓バンクのコーディネート期間短縮化や業務効率化などを調査評価する第三者機関の設置、④患者擁護部門の新設などについて、国の責務を明確にした法律改正をするよう提案し、社会運動として取り組みます。

●事業活動の着実な前進を——加盟団体とともに

ここ10年来ボランティア運動は、各地域においてはドナー登録募集活動に重点が置かれ、全国協議会は患者支援活動に重心が移るようになってき

ました。今年度は、全国的な社会啓発活動とドナー助成制度拡大の活動、患者・家族への支援活動としては、相談窓口の白血病フリーダイヤルの活動とハンドブック「白血病といわれたら」の普及配布、支援基金による経済的困難な方々への援助活動を行います。より良い骨髓バンクと医療を求める活動などを加盟団体とともに取り組みます。各地のボランティア団体の活動推進のために、情報共有と運動ネットワーク構築の強化に取り組みます。

●財政危機——総力挙げて解決へ

3年前より極めて厳しい財政状態に陥り、①人件費や管理費の削減、②事業項目の絞込みと経費削減、③寄付金の増大、④日本商工会議所や関係学会の協力による賛助会員の獲得などに取り組んできました。まだ単年度赤字ですが、収支均衡になるよう全力で努力しています。今年度は、新たな発想で創意工夫をもって、この財政困難を乗り越える年にしたいと思います。



この度、新理事長に就任した田中重勝(たなかしげかつ)です。

これまで、副理事長として全国協議会の財政課題に取り組みとともに、患者に寄り添う相談窓口の開設や支援基金の運営のほか、造血細胞バンク法の施行後3年の見直しについても提言をしてまいりました。この見直しはすでに動きだしており、具体的な改正内容の提示を早急に求められています。

また骨髓バンク啓発とドナー登録推進運動を進めている各地団体と、全国協議会との隔たりも感じているところで、課題の一つであると思っています。

一方、全国協議会の財源は寄付のみにゆだねた脆弱なもので、組織体の運営にはとても厳しい状況が続いていますが、患者さんや各地団体にとっての役割は大きいものと理解しています。

幸いにて、公職はすべて辞しており、長年の介護も終わったことから、全国協議会にかかる多くの課題に、これまで以上に精一杯向き合っていきたいと思います。全力で頑張っ参りますので、みなさまのご支援をよろしくお申し上げます。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

🔍 骨髓バンク NOW

(MONTHLY JMDP(6月15日発行)より抜粋)

■日本骨髓バンクの現状(2017年5月末現在)

	4月	5月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,936	2,958	472,856	701,935
患者登録者数	220	263	3,565	51,097
移植例数	94	106	—	20,747

■5月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/898人、献血併行型集団登録会/2010人、集団登録会/15人、その他/35人

■5月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,041人/20代 70,296人/30代 139,142人
40代 202,093人/50代 57,284人

■5月の20歳未満の登録者496人

■5月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：305件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

2016 年度事業報告 (概要)

全国協議会の2016年度の事業活動と決算概要を報告します。なお、ホームページに詳細を掲載しています。

1. 患者支援活動

①「白血病フリーダイヤル」による相談活動

今年度開催 51 回 (毎週土曜日)、相談 301 件

②ハンドブック「白血病と言われたら」の普及配布活動

疾患・治療編、闘病支援編の2冊セット配布数 338 セット (累計数約 4 万部)

・患者支援基金による経済的困難な患者・家族への支援活動

・「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金」※2016年10月より再開、助成数 4 件、助成額 524,880 円

・「志村大輔基金」助成数・分子標的薬 70 件・精子保存 18 件、助成額・分子標的薬 3,440,000 円、精子保存 927,094 円

・「このとりマリーン基金」助成数・卵子保存 8 件・体外受精 1 件、助成額・卵子保存 2,171,049 円・体外受精 300,000 円

④患者サロン 開催数 5 回、参加者 83 人

⑤軽作業ボランティア 開催数 8 回、参加者 15 人

2. ドナー支援活動

加盟団体の取り組みで「ドナー助成制度」の新設が相次ぎ都府県にも広まり、提供しやすい環境づくりと普及啓発及びドナー登録活動の推進に貢献。

①ドナーサポートダイヤル (ドナー相談受付) 相談数 12 件

②パンフレット「ドナーになるってどんなこと？」配布状況 本人編 3,800 冊、家族・職場編 2,350 冊

3. 社会啓発活動

「全国協議会ニュース」(年 12 回毎回 5000 部)の定期発行、ホームペー

ジ・Facebook の更新。「箱根駅伝」の街頭啓発活動を実施。

その他イベント共催を 4 件、協力を 2 件行った。各地団体が開催する各種イベントの名義後援 (11 件)。「あやちゃんの贈り物展」、「MAMO のメッセージ展」、「患者とドナーのお手紙展」、「いのちの輝き展」への協力。

4. 普及啓発グッズの作成、普及配布

ハローキティポケットティッシュ 22 万個を作成し、クリアファイル、うちわなどの普及啓発グッズを加盟団体および各地方自治体に普及配布。

5. 要望・請願活動

患者負担金値上の反対運動を引き続き展開し、骨髄・さい帯血議員連盟の尽力と厚生労働省の理解により、値上げは当面見送りとなった。

6. シンポジウム・セミナー事業

2016 年 5 月 28 日「全国骨髓バンクボランティアの集い in 東京」記念シンポジウム『造血細胞バンク事業・法制化 3 年目～現状と課題～』を開催し 100 名が参加した。ブロックセミナーは、全国 5 地区で開催し、全国協議会の状況報告と法律の見直しやドナー登録推進 (若年層の対策) の議論、各団体間の情報交換を行った。

7. 調査・研究事業

日本造血細胞移植学会での発表と参加、厚生労働科学研究「造血細胞移植研究合同公開シンポジウム」等への参加

その他、組織運営のための会議開催
総会 2016 年 5 月 29 日 (日)

2016 年度決算報告

収入の部		単位：千円	
科目	2015 年度	2016 年度	
会費収入	2,642	2,316	
賛助会費	2,832	3,121	
寄付金	22,640	38,091	
募金箱	3,932	5,332	
販売収入	4,208	4,077	
その他	290	302	
収入合計	36,544	53,239	
支出の部			
科目	2015 年度	2016 年度	
患者支援金	3,596	7,363	
行事費	7,924	2,171	
製作・印刷費	4,903	3,617	
交通・通信費	5,731	5,718	
事務費・他	1,417	2,714	
人件費	14,717	11,075	
家賃・光熱水料	3,400	2,972	
支出合計	41,688	35,630	
次年度繰越金	24,164	41,773	
(うち基金)	(15,926)	(36,623)	

※注 1) 2016 年「患者支援基金」に大きなご寄付がりましたが、基金会計を除く一般事業の繰越金は僅かに 515 万円にまで減少しており、極めて厳しい財政困難の状況が続いています。

※注 2) 人件費や管理費の削減と事業の見直しなどにより、一般事業活動の収支では、2014 年度 1428 万円赤字、2015 年度 628 万円赤字、2016 年度 167 万円赤字と赤字額が減少していますが、赤字基調であり収入の増収確保が課題です。

開催 日本赤十字社本社会議室
理事会 2016 年 4 月 17 日 (日)、
7 月 10 日 (日)、10 月 16 日 (日)、
2017 年 1 月 15 日 (日)
4 回開催 全国協議会事務所
代表者会議
2016 年 5 月 29 日 (日)
開催 日本赤十字社本社会議室



造血細胞移植法の施行から 3 年が経過して

全国骨髓バンク推進連絡協議会 野村正満

5月24日(水)衆議院第二議員会館において、骨髓・さい帯血バンク議員連盟総会が開催され、日本骨髓バンク、日本赤十字社、日本造血細胞移植学会など関係6団体からの意見聴取がありました。全国協議会は野村正満前理事長(現・副会長)が、患者・家族と市民の立場から法律見直しの必要性を下記のとおりに提言しました。

移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律
(現行) ……移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進を図り、もって造血幹細胞移植の円滑かつ適正な実施に資することを目的とする。

・患者がよりよい移植を受けられ、生活の質(QOL)の向上を図ること
「バンクのための法律」から ⇒ 「患者のための法律」への転換を

「見直し」に必要とされる視点

- ①必要な財源の補助について、国の責務が明確にされているだろうか
- ②法律に基づいたバンク事業が適切に行われていることを監視・評価できているのだろうか
- ③事業当事者の役割分担は適切だろうか
- ④患者救済・QOL向上のためにこの法律は本当に寄与しているのだろうか

◆国の責務と補助

- ・権限強化=許可事業、立入検査、改善命令。しかし、国庫補助は何ら責務の強化はない

◆事業の評価機関と患者擁護

- ・事業評価機関の設置
欧米では業務効率化と事業評価を行う第三者機関が設置され、バンク事業の調査評価する仕組みが構築されている。(例) Advisory Council ※アメリカ
- ・患者擁護部門の構築
欧米では患者の権利を擁護する理念をもとに、患者・家族への正しい医療情報の提供と相談に応じ、移植や治療の選択のため精神的・経済的支援を行う部門が設置され、その仕組みが構築されている。
(例) アメリカの OPA = Office of Patient Advocacy
WBMT (世界造血細胞移植ネットワーク) には PAAC = Patient Advocacy and Advisory Committee がある

◆役割分担の変更

- ・日本赤十字社のドナー募集の業務規定化
献血業務と融合連携した、ドナープール拡大の推進
ドナーリクルートと登録業務の一本化
日本赤十字社のドナーコーディネートへの協力
ドナー若年層対策など、地方自治体の行う業務と責務の明確化

◆患者救済と QOL (生活の質) 向上

骨髓バンクの移植数減少 (さい帯血移植の増加)

- ▶ 長期にわたるドナーコーディネート期間 (現状: 平均 150 日)
⇒短縮目標値の設定 → 90 日へ
※ドイツ: 60 日、アメリカ・韓国: 90 日
・移植数の増大 → 経営状況の改善へ
・コーディネートの迅速化で、移植成績(生存率)も向上へ
- ◎コーディネートの抜本的見直し
- ◎拠点病院と移植病院の連携強化
- ◎バンクと主治医・HCTC (移植コーディネーター) の連携推進

2017年5月24日

骨髓・さい帯血バンク議員連盟 様

特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
会長 仲田 順和
理事長 野村 正満

骨髓バンク事業の見直しの要望書

日頃より、国民の医療と福祉の増進にご尽力を賜り感謝申し上げます。
さて、本年1月「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」施行から3年を経過しました。つきましては、骨髓バンク事業が抱えている困難を解決し益々発展するよう下記の見直しを要望いたします。何卒、ご検討のうえ法律改正を含む必要な施策を講ぜられますようお願い申し上げます。

記

1. ドナー募集活動の主体は、日本赤十字社(血液センター)とする役割分担を行い規定化してください。
2. 地方自治体は、普及啓発とドナー募集活動を日本赤十字社とともに行う責務を有することを規定化してください。
3. 国及び地方自治体は、日本赤十字社が行う普及啓発とドナー募集活動に対し、必要な財政支援を行う責務を有することを規定化してください。
4. 国及び地方自治体は、普及啓発とドナー募集活動の毎年度目標数と実施計画の作成並びに実施する責務を有することを規定化してください。
5. 国及び地方自治体は、ドナー登録希望者の発掘増進を図るため教育機関等への普及啓発及びドナー候補者が提供しやすい環境の整備等に必要な施策を講ずる責務を有することを規定化してください。
6. 国は、骨髓バンク事業のコーディネート期間短縮化や事業効率化等のための事業評価機関の設置及び患者からの相談に応じ、患者・家族への精神的、経済的な支援活動を行う患者擁護機関の設置等について必要な施策を行う責務を有することを規定化してください。
7. 国は、骨髓バンク事業が患者負担金によらずに安定的な事業運営ができるよう公的な財政支援を行う責務を有することを規定化してください。以上

「2017 全国骨髓バンクボランティアの集い」 記念講演

造血細胞移植の 現在と未来

～コーディネート期間を短縮するために～

国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科
福田隆浩 先生



プロフィール

長崎県佐世保市出身
 1989年 九州大学医学部卒業・九州大学・第一内科入局
 1992年 九州大学大学院・医学系 博士課程
 1996年 県立宮崎病院 (内科医長)
 2000年 フレッドハッチソンがん研究センター
 (アメリカ・シアトルの移植病院で臨床・研究)
 2003年 九州大学病院 第一内科 (助手)
 2005年 国立がんセンター中央病院・造血幹細胞移植科
 2012年 同上 造血幹細胞移植科 科長
 2016年 厚生労働省「厚生科学研究班」班長

本日は、1) 造血幹細胞移植の基本、
 2) 国立がん研究センター中央病院
 (NCCH) の取り組み、3) 骨髓バンク
 コーディネート期間短縮、4) 造血幹
 細胞移植の未来 の4点についてお話
 いたします。

1) 造血幹細胞移植の基本

白血病など血液がんの治療は、抗がん剤が比較的良くききますので基本的な治療方法は化学療法です。しかし残念ながら化学療法だけでは、再発など

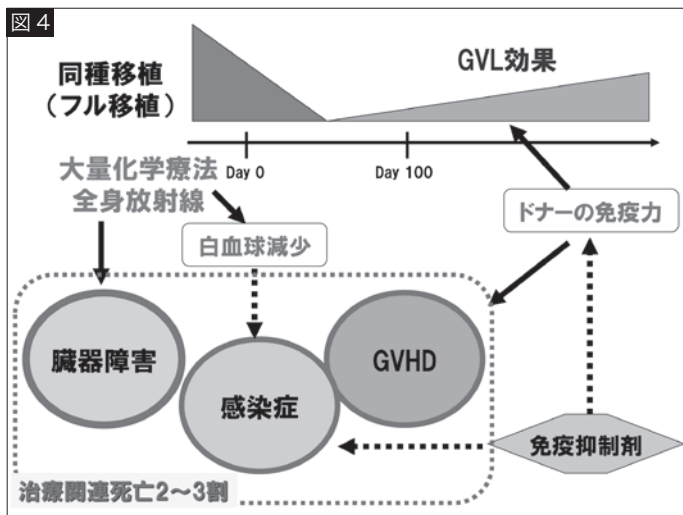
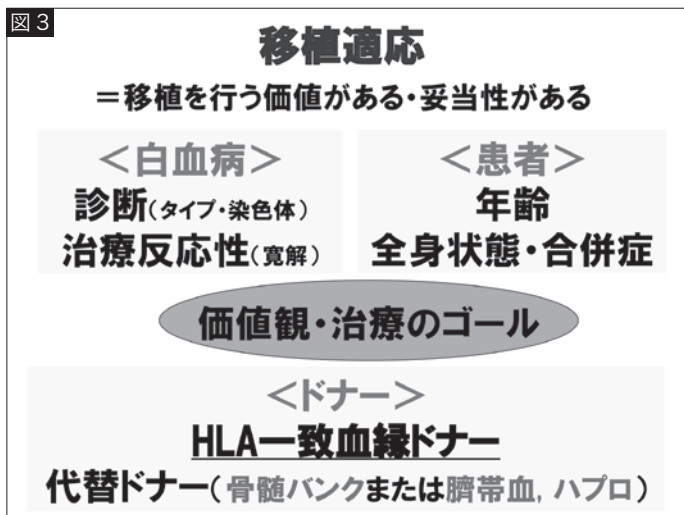
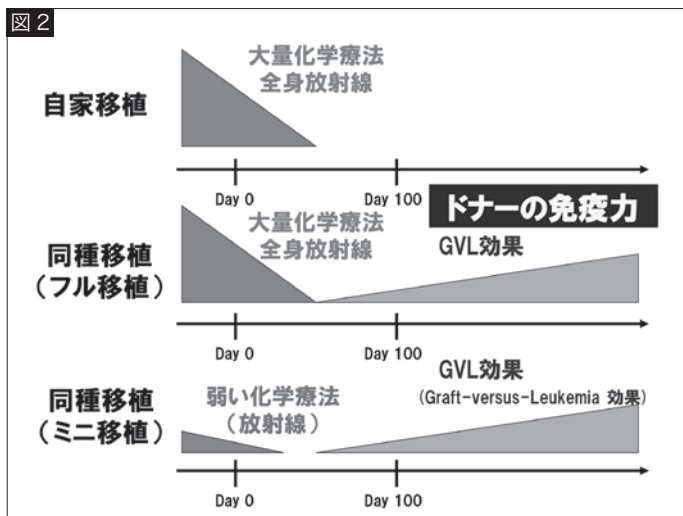
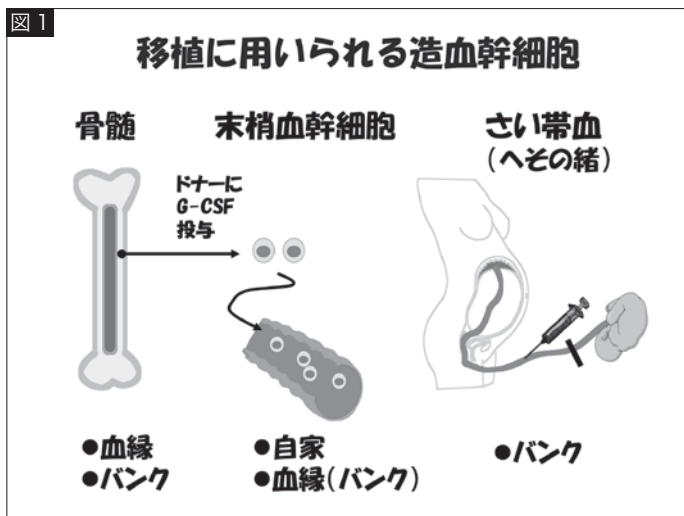
を起こす患者さんが多いため、完治を目指す治療法として造血幹細胞移植が行われています。移植のソースは、骨髓細胞、末梢血幹細胞、さい帯血(へその緒)の3種類があります。「移植に用いられる造血幹細胞」(図1)

移植方法としては、大きく分けて2種類があります。自分の造血細胞を使う自家移植と、他人(家族やバンクドナー)から造血細胞をもらう同種移植です。同種移植では、大量の抗がん剤や放射線を使うフル移植と少し弱体化

学療法(放射線)で行うミニ移植に分かれます。主に50歳以上の患者さんにミニ移植が行われています。「造血幹細胞移植の種類」(図2)

一人一人の患者さんに移植適応があるかどうか慎重に検討し、患者さんと家族の方々とよく話し合っ決定します。「移植適応」(図3)

なお、ドナー細胞の免疫力は強力で、白血病細胞をやっつける効果があり、移植片対白血病効果(GVL効果)といひます。しかしこれが強すぎると



患者さん苦しめる移植片対宿主病 (GVHD) という合併症がでます。厄介で複雑な免疫反応のことで、免疫抑制剤などで上手くコントロールする必要があります。

さて、この10年で同種移植の環境は大きく様変わりしました。以前は、骨髄バンクでドナーが見つからないと移植はできなかったのですが、最近では、さい帯血移植と血縁者ハプロ移植が行われるようになり、患者さんの病状に合わせたタイミングで移植方法を選択できるようになっています。

2) 国立がん研究センター中央病院 (NCCH) の取り組み

同種移植は確実に進歩してきていますが、基本的な課題があります。それは移植後の短期間 (100日程度) での治療関連の死亡率が高い点です。移植前に行う大量化学療法や放射線の副作用で、肺や心臓、肝臓、腎臓などの臓

器障害が起きやすく、白血球減少期にみられる感染症があります。それらに加えて急性移植片対宿主病 (急性GVHD) があります。こうした治療関連死亡が2~3割もあり大きな改善目標となっています。「同種移植での治療関連死亡リスク」(図4)

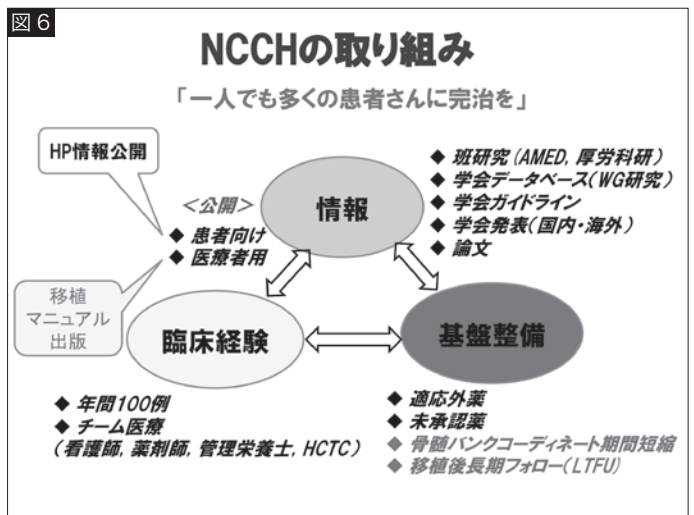
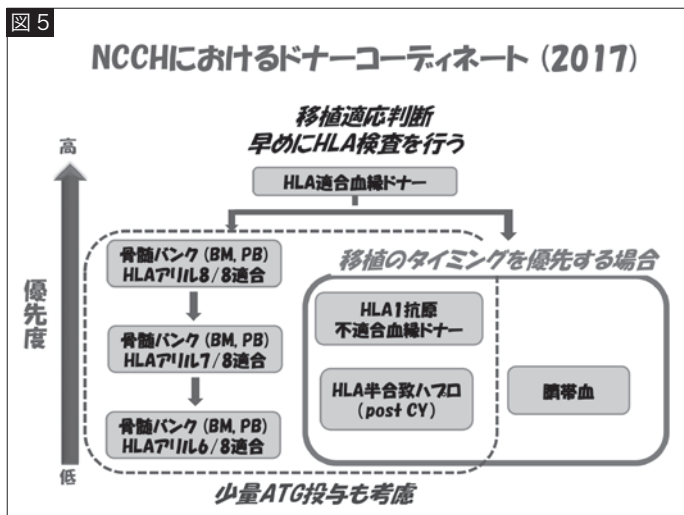
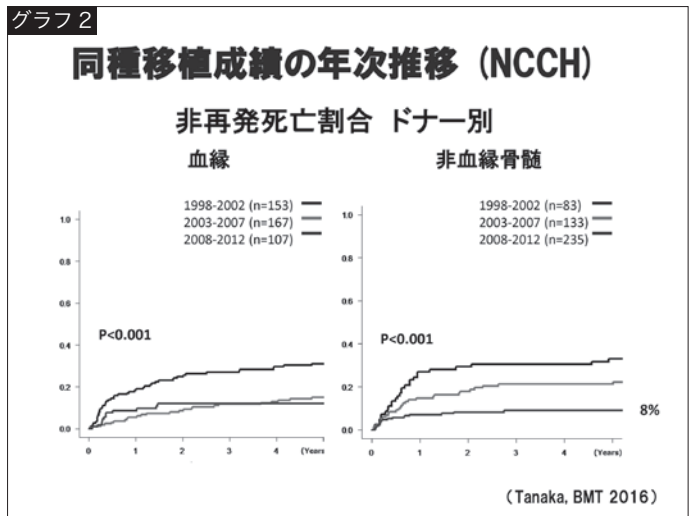
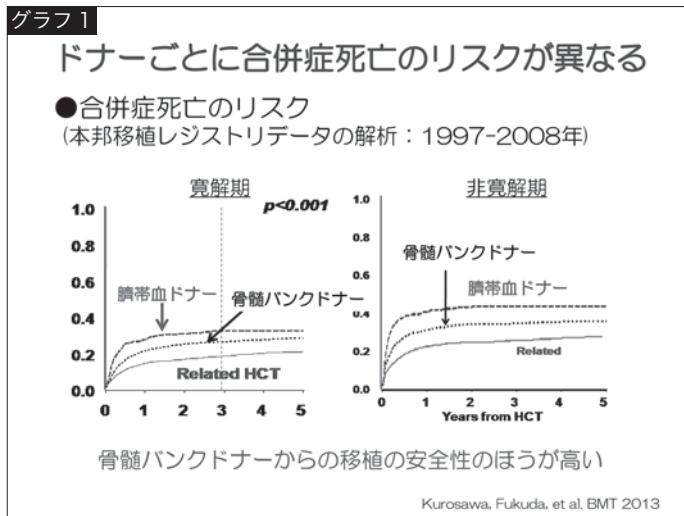
ドナー種類ごとの合併症死亡のリスクを示します。少し前の全国データの解析になりますが、血縁間での移植成績が一番良いです。次に骨髄バンクドナーの成績が良く、さい帯血移植が最もリスクが高い移植法になります。「ドナーごとに合併症死亡のリスクが異なる」(グラフ1)

次に、当院での移植成績の年次推移を紹介します。1998年から5年間、その後5年間毎で比較したグラフですが、近年は、特に非血縁BMTの治療成績が向上してきています。「同種移植成績の年次推移 (NCCH)」(グラフ2)

当院における移植のドナー選択の順

位、移植方法についてです。HLA一致血縁ドナーがない場合、まずはHLA適合非血縁ドナーを探します。その適合度によりドナー順位を決めます。そして骨髄移植 (BMT) か末梢血幹細胞移植 (PBSCT) のどちらかを様々な条件を検討して決めます。病状からして早いタイミングでの移植を優先する場合は、さい帯血移植やハプロ移植を検討します。「NCCHにおけるドナーコーディネート (2017)」(図5)

当院での造血幹細胞移植は、毎年100例ほど施行しております。これまでは骨髄バンクドナーが多かったのですが、最近ではさい帯血移植やハプロ移植も増加してきています。また、当院は全国でも最も多くの非血縁PBSCTを行っています。最近の非血縁BMTとPBSCTの比較では、2/3がミニ移植ですが両者の成績は変わりません。慢性GVHD対策として少量ATG (抗胸腺細胞グロブリン) 投与



によりGVHDの重症化が半分に減少しており、この方法を広めて行く必要性を感じています。

国立がん研究センター中央病院としての役割として、①臨床経験（年間100例、チーム医療）、②基盤整備（適応外薬・未承認薬、コーディネート期間短縮、移植後長期フォローアップ）、③情報公開（患者・医療者向けHP公開、学会発表、厚労省班研究、論文発表）の3点があります。非常に多岐にわたる分野での役割がありますが、「一人でも多くの患者さんに完治を」という目標に向けて努力しております。「NCCHの取り組み」(図6)

3) 骨髄バンクのコーディネート期間短縮

私たち医師は、患者さんの病状にあったタイミングで移植を行いたいと願っています。移植まで到達できれば、骨髄移植は最も安定的な成績が得

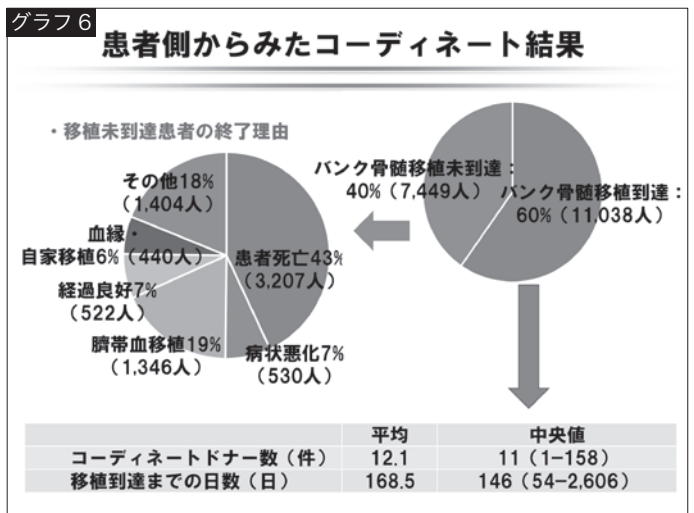
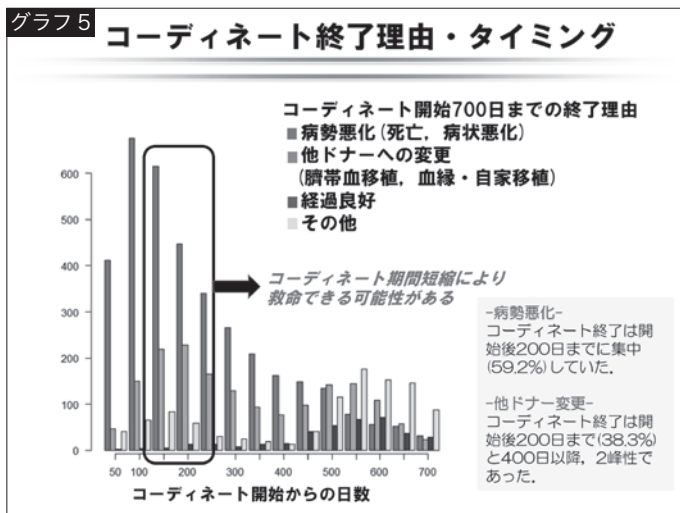
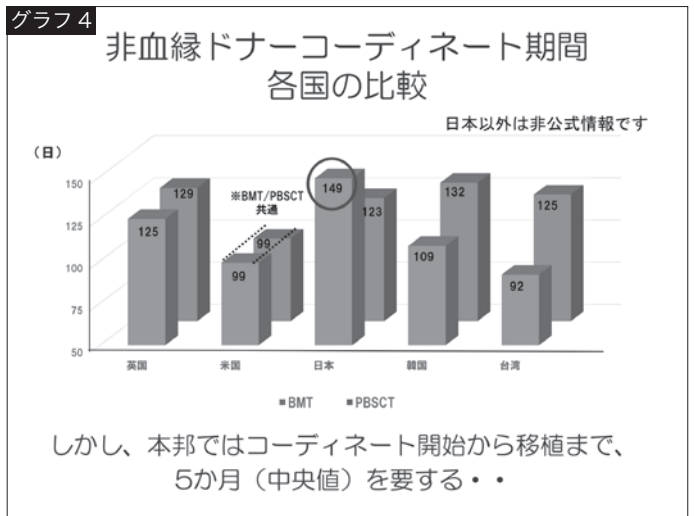
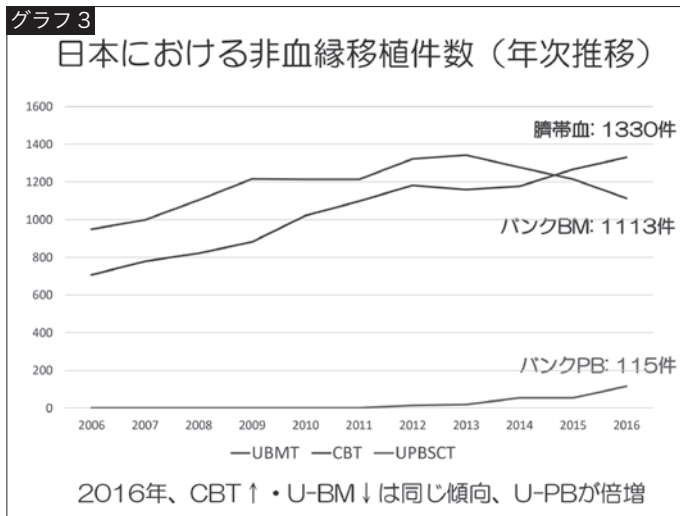
られています。できれば骨髄バンクドナーから移植を希望していますが、コーディネート期間が長いという問題点があります。そのため患者さんの病状からして待てない方も多く、さい帯血移植、血縁者ハプロ移植に切り替える方が増加しています。全国集計によると3~4年前から骨髄バンクの件数が減少し、2015年以降はさい帯血バンクの件数が上回る傾向となっています。「日本における非血縁移植件数(年次推移)」(グラフ3)

患者登録から移植までにかかる日数の国際比較では、日本が149日、イギリス125日、アメリカ99日、韓国109日、台湾92日と明らかに日本が長いのです。こうした実態から、他の国と同様に100日程度に短縮したいのです。「非血縁ドナーコーディネート期間(各国の比較)」(グラフ4)

患者さんのコーディネート中止時期は、登録から200日以内での中止が一

番多く、理由は死亡・病状悪化が大半で、次いで他のドナー(移植方法)への変更です。特にコーディネート開始後100日~200日に終了となった患者さんは、コーディネート期間短縮により救命できる可能性があり、短縮化が是非とも必要と考えています。「コーディネート終了理由・タイミング」(グラフ5)

過去10年間のコーディネートについて、ドナー延べ約22万件(ドナー数17万人)、患者1万8千人のデータ解析をしました。登録患者のうち1万1千人・60%が移植に至りましたが、7千人・40%は未到達でした。移植に至った患者のコーディネートドナー数の中央値は11人、日数は146日でした。現在、患者が同時にコーディネートできるドナー数は5人までです。5人以下で移植に至る確率は1/2で、同時に10人コーディネートが可能となれば1カ月ほど短縮できる可能



性があり、現在トライアルが行われています。「患者側から見たコーディネート結果」(グラフ6)

ドナー年齢別・性別の終了理由別の解析では、若年層は忙しく都合がつかないことが多く、40歳代以降は健康問題での終了が多いです。「ドナー年齢・性別、各行程における終了理由」(グラフ7)

私どもの研究班でH28年度に行った実態調査の結果のまとめです。「骨髄バンク研究班(H28年成果)」(図7)

また、研究スケジュールとその内容について一覧で示します。「骨髄バンクコーディネート期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究」(図8)

欧米では、若い男性ドナーからの移植成績が優位に良い結果となっており、日本でも同様の傾向がうかがわれます。若年層のドナーを増やす必要性

があり、メリットが多いと思います。

これからの課題について示します。「骨髄バンクコーディネート期間短縮のためには」(図9) 今後、これら一つひとつ検討して行き、具体的に期間短縮の成果を出して行きたいと思っています。

4) 造血幹細胞移植の未来

最後のテーマですが、医療進歩が著しい今日、長い将来を見通すのは難しいので、造血幹細胞移植の成績向上での3つの当面する課題・分野については、次のとおりです。

- ① 診断・治療反応性の予測
 - ・発症メカニズム解明
 - ・治療反応性(抗がん剤)⇒個別化医療
- ② 最適なタイミングでの移植を行う体制
 - ・骨髄バンクでは、100日以内の移植

の実現

- ・さい帯血バンクでは、安定供給と様々な細胞療法の基盤づくり
- ・移植適応判断の均てん化
- ③ 移植の成功率向上
 - ・抗腫瘍効果(GVL効果)と合併症(CVHD)の分離
 - ・GVHD、感染症、臓器障害の事前予測、治療薬
 - ・移植後フォローアップ体制 移植後の長期にわたるフォローアップ体制を構築し、患者のQOL(生活の質)向上と治療連携の推進

これらの点が解決され、患者さんにとってより良い移植ができようになることを願っています。以上で、本日のお話を終わります。

(黒澤彩子先生の「移植後長期フォローアップ」は、次号に掲載します。)

グラフ7 ④ ドナー年齢・性別、各群における終了理由

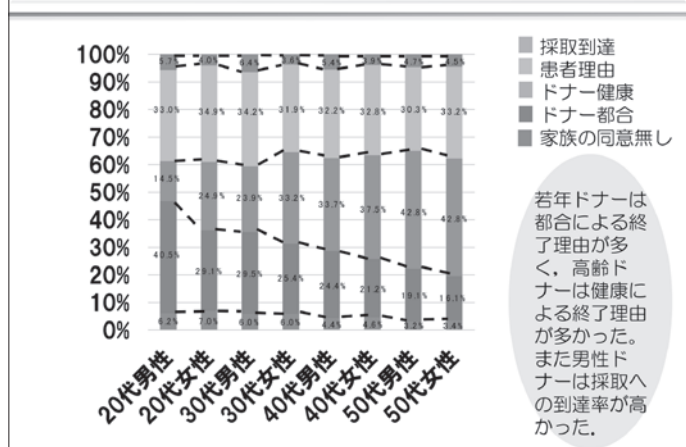


図7 骨髄バンク研究班(H28年度成果)

- ◆ 過去10年間の骨髄バンクコーディネート実態調査
 - ① HLA一致ドナー候補人数が多いほど採取到達率が高く、コーディネート期間が短い
 - ② 最初に確定したドナーが採取へ到達する場合、2回目以降の場合と比較して、コーディネート期間が短い
 - ③ 前回コーディネート結果が患者理由中止の場合、ドナー理由中止の場合と比較して採取到達率が高い
 - ④ 若年ドナーは都合による終了理由が多く、高齢ドナーは健康による終了理由が多い
- ◆ 医師・コーディネーターへのアンケート調査(717名)
- ◆ ソーシャルマーケティング手法を用いたコーディネート進行率向上を目指した研究(インタビュー調査→介入研究)

図8 骨髄バンクコーディネート期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究

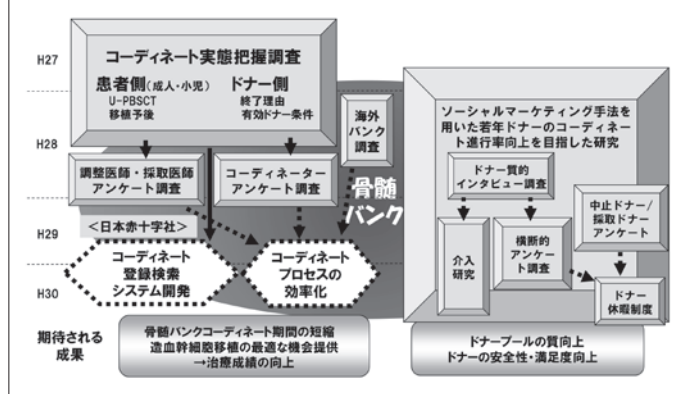


図9 骨髄バンクコーディネート期間短縮のためには

- ◆ コーディネートの各プロセスで期間短縮を試みる
 - 確認検査・採取の日程調整
- ◆ コーディネートシステム自体を簡略化する
- ◆ コーディネート進行率が高いドナーを選択できるシステムを開発する
 - 造血幹細胞移植支援システムの開発(日赤)
- ◆ 非血縁末梢血幹細胞採取の割合を増やす
- ◆ コーディネート進行率が高いドナーを増やす
 - 進行率が高いドナーのリクルート
 - 既登録ドナーのコーディネート進行率向上

各地のたより

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

北海道

とまこまい
苦小牧
自衛隊パワーに感謝!



初の? 苦小牧推進会からのたよります。北海道・フェリーの玄関口、ほっき貝が名物の人口17万人の街で、ニューヨーク・ヤンキースの田中マア君も駒大付属苦小牧高校出身です。

昨年は、ドナー登録会を月1回のペースで12回開催し、204名の協力が得られました。今年は、更に回数を増やし、年60回を目標としています。特に、これまで友好関係のある自衛隊駐屯地での開催回数の増加や新規事業所・高校での登録会を実現したいと思います。4月と5月の実績は、11回で183名の登録者があり、良いスター

ゴールドジム格闘技スクール
発表会 2017

今年もイベントを通じご寄付をいただきました。ありがとうございます。



6月18日(日) ゴールドジムサウス東京アネックス店(大森店)にてチャリティイベント格闘技スクール発表会2017が開催されました。日頃ゴールドジム内の格闘技スクールにて練習に励まれている団体様スクール生様にご参加いただき誠に感謝しております。毎年、イベントとしても新しい試みを取り入れながら進歩した形になってき

トとなりました。

これからも「一人でも多くのドナー登録を」の原点を忘れず活動して行きます。最後に、温泉と美味しい食べ物が一杯の北海道へ、皆様も是非遊びにいらして下さい。お待ちしております。
(苦小牧・矢嶋 翼)

愛知

タスキをつないで
骨髄バンク啓発リレー



6月4日(日)の「春日井絆マラソン」にあいちの会のランナー4人に骨髄バンクランナーズの2人が加わり、更に5人の応援団の熱い声援を得て、リレーマラソン大会に参加しました。

101チーム約700人のランナーによる和気あいあいのランニングイベントで、参加費用の一部が東日本大震災の復興支援に寄付されます。自動車学校内の教習コースの1周1.2キロを走る全国でも珍しい大会です。

リレーコースの中心である教習コース中央交差点の一角に応援団のテントを張り、ノボリを2本掲げて骨髄バンクをアピール。「タスキをつなぐ」リレーマラソン大会なので、「命をつなぐドナー登録」と相通じるものがあると評価されたのか、表彰式では「絆賞」という特別賞をいただき、ランナー全員が壇上に上りました。

参加者の方々が少しでも骨髄バンクのことに興味を持ってもらえることに期待しています。

(あいちの会 中山武彦)

「2017グリーンリボンランニングフェスティバル」が、10月9日(月・祝)に東京・駒沢オリンピック公園で開催されます。このランニングフェスティバルは移植医療を受けた方や障がい者、一般ランナーと一緒に楽しく走り、また、移植医療に対する正しい知識・理解を深めるイベントです。今年も骨髄バンクPRランナーと応援ボランティアを募集します。

応募は、ランナーは8月4日(先着順)、応援ボランティアは9月22日までに全国協議会事務局へ。競技種目など詳しくは当協議会ホームページをご覧ください。

ております。格闘技の演技、エキシビジョン、キックボクシング、グラップリングの試合、初の試みとなるトーナメント戦を実施いたしました。

今回、骨髄バンク、東日本大震災、熊本地震の為237,009円の募金が集まりました。募金をしていただいた皆様ありがとうございました。今後もチャリティ活動を続けて参ります。

ゴールドジム格闘技スクール発表会
2017 実行委員長 木村潤平

賛助会員の皆さま紹介 (敬称略)

- 【一般賛助会員】
高下裕子=大阪▽小林一夫=徳島
【サポート会員】
小野寺泰則=山形▽荒木光子=東京

心からのご寄付に感謝申し上げます ●5月21日~6月20日(敬称略)

●一般	現金	5,000円	●このとりのマリン基金	現金	
㈱ゼロナビ	現金	100,000円	青野 文仁	現金	3,000円
東京新都心ライズクラブ会長			濱田 樹	現金	3,000円
渋谷 俊徳	現金	10,000円	●佐藤さち子患者支援基金	現金	20,000円
渋谷 良一	現金	900,000円	神奈川骨髄移植を考える会	現金	100,000円
宮本 純子	現金	1,348円	日根 和美	現金	10,000円
鈴木 純子	現金	1,348円	高下 裕子	現金	30,000円
山村 詔一郎	現金	3,000円	●志村大輔基金	現金	10,000円
山村 詔一郎	現金	50,000円	ヤマダ タカシ	現金	10,000円
遠山 純子	切手	12,400円			
匿名	現金	4,120円			

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会